

1 いちご

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠
うどんこ病	—	やや少	・巡回調査の結果、発生地点率は平年より低く、発病株率も平年よりやや低かった。(/ -) ・向こう1か月の日照時間は、ほぼ平年並と予報されている。(/ ±)
ハダニ類	—	平年並	・巡回調査の結果、発生地点率は平年並であった。(/ ±) ・向こう1か月の日照時間は、ほぼ平年並と予報されている。(/ ±)
コナジラミ類	—	やや多	・巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高かった。(/ +) ・向こう1か月の日照時間は、ほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

より詳しい内容は、下記HPでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第10号の発行日は、12月17日(金)の予定です。

ー12月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:11月15日

天候予報:仙台管区气象台11月11日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	ー	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果,発生地点率は平年より低く,発病株率も平年よりやや低かった。
- (2)向こう1か月の日照時間は,ほぼ平年並と予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果,発生地点率は平年並であった。
- (2)向こう1か月の日照時間は,ほぼ平年並と予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果,発生地点率は平年よりやや高かった。
- (2)向こう1か月の日照時間は,ほぼ平年並と予報されている。

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・草勢低下はうどんこ病が発生しやすく,過繁茂は灰色かび病の発生を助長し,薬剤の散布ムラが生じやすくなるため適切な肥培管理に留意する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達を防止するため,同一作用機構分類に属する剤の連用を避け,計画的なローテーションを行う。
(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)
- ・薬剤散布を行う場合は,訪花昆虫(ミツバチ等)への影響日数に注意する。
- ・いちごの農薬使用回数は,親株からランナーを切り離した時点から収穫終了までをカウントする。
- ・炭疽病や萎黄病等の罹病株は,見つけ次第速やかに抜き取り,適切に処分する。
- ・気門封鎖型薬剤や天敵製剤等,IPMに関する防除については,下記の普及に移す技術を参照。

※普及に移す技術第93号普及技術7「大規模施設における促成イチゴ栽培のIPM体系」

<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/685135.pdf>

※普及に移す技術第 82 号普及技術9「促成イチゴ栽培でのミヤコカブリダニを基幹としたハダニ類の防除体系」 <https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/69958.pdf>

※普及に移す技術第 94 号参考資料 16「促成イチゴにおける UV-B 電球形蛍光灯と反射資材の併用によるハダニ類抑制効果」 <https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/735203.pdf>

(2)うどんこ病

- ・軟弱徒長すると発生が助長されることから、温度管理やかん水を適切に行う。
- ・多発すると防除が困難になり、収量にも影響するため、発生初期から防除を徹底する。
- ・発病果は品質を低下させるとともに、伝染源になるので、見つけ次第除去し適切に処分する。
- ・各種薬剤のイチゴうどんこ病に対する防除効果及び残効性については、下記を参照。

※普及に移す技術 第 93 号 参考資料 11「各種薬剤のイチゴうどんこ病に対する防除効果及び残効性」

<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/685977.pdf>

(3)ハダニ類

- ・多発してからの防除は困難なので、ほ場をよく見回り増殖する前に防除を実施する。
- ・天敵(ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ等)を放飼する際には放飼前に気門封鎖型薬剤や天敵類に影響が少ない薬剤を散布し、ハダニ類の密度を極力低下させてから放飼する。

(4)コナジラミ類

- ・多発すると排泄物(甘露)によるすす病を発生させるので、よくほ場を観察し早期防除に努める。
- ・ラノーテープは草丈に合わせて、3ベッド(畝)毎にテープを展張することで増殖を抑制する効果が発揮される。
(使用量の目安は 10~50m²/10a, 10m²=テープ 200m)
- ・ラノーテープを使用しているほ場でも密度が高い場合は、薬剤散布により適切に防除する。

— 農薬の適正使用について —

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp